

指定管理者の実績報告に虚偽

リージョンプラザ、報告と実績の差額1億円以上か

まだ市議会の構成が決まっていないなかで市は8日、「リージョンプラザ上越の指定管理者による虚偽報告」についての議員への説明会を開催しました。虚偽報告というのは、リージョンプラザ上越の指定管理者である新東産業株が毎年度末に提出してきた実績報告書において虚偽の記載をしたというものです。市に損害を与えた可能性も指摘されています。

説明した教育部長などによると、同社が提出した実績報告書（収支決算）において、委託料や賃料などの項目で実態と異なる金額が複数計上されたということです。具体的に明らかにされたのは、アイスアリーナ委託料（令和4年度。市への報告は1800万円。市の調査実績は1056万円）、除雪機リース料（令和4年度。市への報告は52万8000円。市の調査実績は24万9000円）の2つですが、同社がかかわっている施設は7施設に及び、過去5年間での報告と実績の差

額は約1億円にもなる可能性があるとのこと。市では7日、市顧問の弁護士、公認会計士と委託契約を結び、7月末までに詳細調査を行うとしています。

説明を受け、日本共産党議員団の3人の他、滝沢一成議員など4議員が、「指定管理契約書でこの種の事件が起きた場合の処分はどうなっているか」「全容解明が求められているが、すでに虚偽報告がはっきりしているなかで同社が運営にかかわり続けることは常識的に見ておかしい。何とかならないのか」「これまでの報告と実績の差額はどれくらいになるのか」「虚偽報告だとの通報があったとのことだが、内部か外部か」などの質問が相次ぎました。教育部長、総務部長が、「契約上は指定取り消し等4つの処分方法がある」「大きな大会などもあり、利用者のことを考えると（全容解明までは）運営を同社にして



もらざるをえない」「5年間で1億円ほどになる見込みだ。ただ、その金額がイコール損害額とはならない」「外部であろうが内部であろうが、そのことを明らかにすると通報者を特定することにつながる可能性があるため、明らかにできない」などとのべていました。

調査は専門家をお願いする部分を中心となると思いますが、全容調査と今後の対応を考えると、庁舎内に調査委員会を設けていくべきだと思います。

コウノトリのヒナ 順調に育っています

吉川区で6日に誕生したコウノトリのヒナですが、巣の中で元気に動いています。矢印の先はヒナの頭です。いまのところ、ヒナは2羽確認されています。実際にはまだいるかも。

写真は14日に撮影したものです。



パートナーシップ制度でつどい

上越市パートナーシップ制度を広める会（阿部和子代表）が12日、制度導入報告のつどいを開催しました。70人ほどの人たちが参加しました。

つどいでは、阿部代表がこれまでの取組について感動的に報告し、市の担当課が同制度の説明をしました。参加者からは、「誰でもいつでもどこでも簡単に出来るように」「もっと当事者の声を聞いて見直しを」などの声が出ていました。



【カリン】バラ科の落葉高木。漢字で「花梨」と書きます。亡き父が植えた庭木の1つです。毎年多くの実を实らせますが、生のまま食べられないこともあって、いつも処分しています。花期は3月～5月。わが家では淡紅色の花を咲かせます。ただ、今年は数個のみ。花言葉は、「豊麗」「唯一の恋」。写真は5月5日、わが家にて撮影しました。

はしづめ法一の 活動レポート

No.2156 2024.5.19

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八〇三回 コウノトリの郷に

五月六日の一四時四〇分でした。巢の中にいたコウノトリのメスが飛び立った後、巢に残ったオスの様子がいつもと違ってきただのは……。

観察を始めて五時間半が経ってしまいました。オスは肩にグッと力を入れ、とってきいたエサを体内から吐き出そうとしていました。私は、酒を飲みすぎた人間がトイレの便器に向かって吐く姿を連想しました。その姿はあまりにも苦しそうで、大丈夫かなと心配になるほどでした。

近くの木の上からは小鳥たちの鳴き声が聞こえてきました。田んぼを耕すトラクターの音も聞こえます。そして数秒後、コウノトリのオスは、とうとう、嘴(くちばし)を広げ何かを吐き出しました。小さな魚が力エルのどちらかだと思えます。

吐き出した瞬間、「ヨシ、ヤッター」と思いました。というのは、ヒナが誕生していることが明らかになったからです。その日の前日、私は、兵庫県豊岡市のコウノトリの郷公園の専門家の方から「ヒナがかえっても、巢の上からでない」と見えないうえ、親鳥がエサを吐き出すところを確認できれば、生まれたヒナにエサをくれる行動に入ったと判断していいですよ」とアドバイスしてもらっていました。

嘴からエサを吐き出す様子は動画で撮影しました。ヒナの誕生は間違いのないと思いましたが、やはり専門家に最終的な判断をしてもらいたいと思ったからです。すぐに家に帰り、コウノトリの郷公園の担当者に動画を送信すると、「間違いありません。おめでとございます」と言われました。

事前にいただいていた情報では、この上越市がコウノトリのヒナが誕生した最北の地となります。県レベルでみると、新潟県はトキとコウノトリの双方のヒナが誕生した全国で唯一の県となりました。こうして五月六日は記念すべき日になりました。

私がコウノトリと初めて出会ったのは、五年前の八月一七日の夕方でした。友人のHさんから、「ツルらしきものが飛来してきている」と言われ、大急ぎでカメラを持って出かけたことをよく覚えています。

場所は吉川区赤沢の田んぼです。そこには見たことのない、大きな鳥がいました。体長は一桁を超え、羽の後ろの方は黒く、白と黒の組み合わせが素敵でした。正直言って、コウノトリかもと思ったものの、それまで飛来したという話は聞いたことがなかったし、コウノトリだと断定する自信がありませんでした。翌日の朝に書いたブログでも「多分、コウノトリかと思えます」と書くのが精いっぱいでした。

そのコウノトリは数日にわたって、赤沢、下中条などにいました。その間に、私は兵庫県豊岡市のコウノトリ担当者や連絡をとりました。その結果、鳥は間違いなくコウノトリであり、足環の色の組み合わせから前年の四月一九日生まれのおスであることが判明しました。

コウノトリはいつのまにかいなくなりましたが、その鳥は上越市吉川区を忘れてはいませんでした。翌年の八月一三日に再びやってきたのです。見かけた場所は下中条でした。コウノトリは地図を持ち歩いていくわけではないのに、ちゃんと一年前に来た場所を覚えていてくれました。

コウノトリと初めて出会ってからもななく五年になります。いまや上越市全体がコウノトリの飛来する場所になりつつあります。吉川区だけでなく、大潟区、柿崎区、頸城区など市内各地で出会っています。

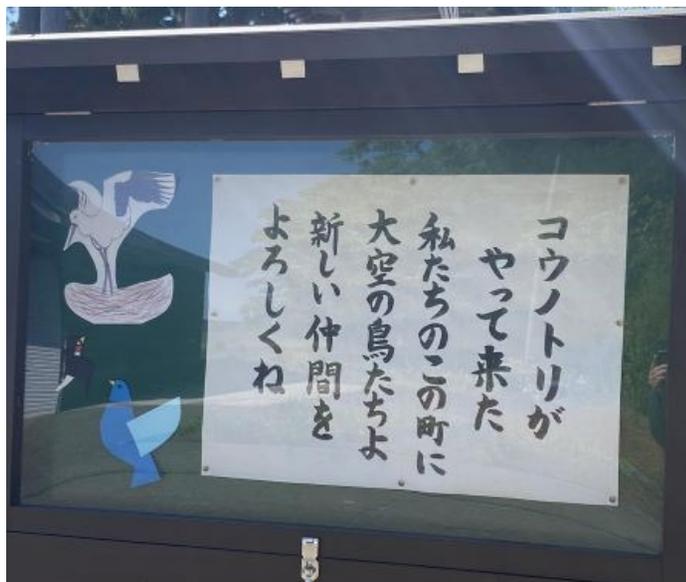
コウノトリは幸せを運ぶ鳥と言われていますが、肝心なのは安全なエサを確保できるかどうかです。環境保全型農業が重要です。今回のヒナの誕生を機に農業のありかたを見直し、コウノトリがいっぱい、幸せいっぱいのコウノトリの郷をつくらたい。

地元のお寺の掲示板にもコウノトリ

コウノトリのヒナが誕生した吉川区では寺院の掲示板にもコウノトリが登場しました。

コウノトリがやって来た私たちのこの町に大空の鳥たちよ新しい仲間をよろしくね

やさしいですね。この掲示板は同区代石の浄土真宗本願寺派寺院、善長寺の下にあります。



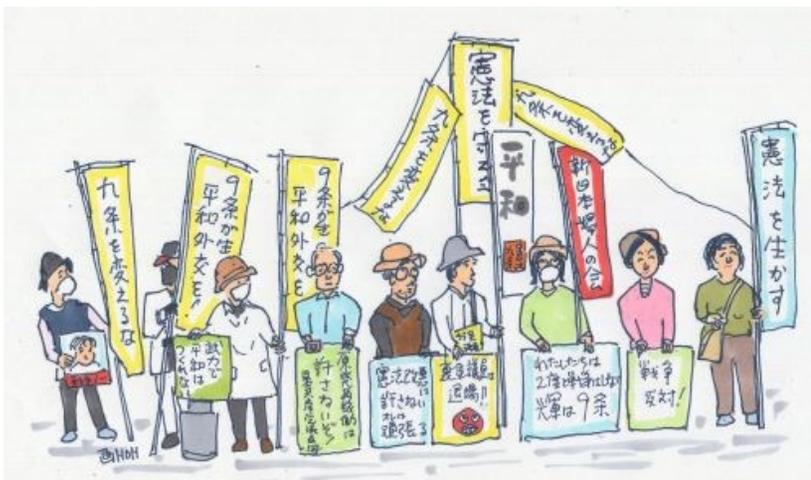
上越地域各消防署における 空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	5月8日(水)	5月15日(水)
上越南消防署	0.057	0.053
上越北消防署	0.040	0.040
新井消防署	0.047	0.040
頸北消防署	0.057	0.053
頸南消防署	0.067	0.070
東頸消防署	0.040	0.040
名立分遣所	0.057	0.057
高士分遣所	0.057	0.050

「九条守れ」、「原発再稼働許すな」とアピール



3日の憲法記念日の上越九条の会ではカニ池交差点でアピール行動をしました。

原発再稼働に向けた動きが強まっていることもあり、再稼働反対の看板も出ました。